

## 会 議 録

会議の名称	中学校再編に係る地域説明会（石越地域）	
開催日時	令和4年10月31日（月）	
	午後7時00分開会	
	午後8時10分閉会	
開催場所	石越公民館 多目的ホール	
事務局（教育委員会）氏名	教育長	小野寺 文晃
	教育部長	小林 和仁
	次長兼教育総務課長	菅原 正博
	学校再編推進室長	白岩 登世司
	学校再編推進室長補佐兼学校再編推進係長	千葉 道宏
	学校再編推進室 主査	西條 文武
	学校再編推進室 主事	佐藤 春香
参加者数	14人	
事務局	開会 午後7時00分	
教育長	挨拶	
事務局	配布資料に基づき「中学校再編の考え方及び今後の進め方」、「中学校再編準備委員会の設置」について説明	
事務局	意見交換・質疑応答	
参加者	<p>現在、登米市内で1年間に生まれている子どもの数ほどの程度か。中学校だと、今年、生まれた子どもが12年後に入ることになるが、その数も踏まえて再編を考えているのか。</p>	
事務局	<p>令和3年度の子どもの出生数について、誤差はあるかもしれないが、373人と把握している。この計画については、出生数を見ながら計画としたものである。</p> <p>中学校の将来の生徒数の推移を踏まえて、原則として各学年2クラス以上の学級編成となるようにとしたもので、小学校の再編を町域ごとに進めており、子どものことを考えると中学校についても町域を分割することなく、小学校の通学区域を基本として、1町から3町の町域単位でまとめた結果、市内を4つに分けた。</p>	
参加者	<p>地域活性化、地域づくりの部分では、学校との協力がこれから非常に大切になってくると思う。市民体育祭、芸能祭など、いろいろなかたちで中学校との関わりを持っており、スポーツ少年団を指導している状況もある。教育委員会では、統合後の地域との関わりをどのようなかたちで考えているのか。その状況によっては、地域づくりも変えていかなくてはならないのではないか。</p>	
事務局	<p>学校統合については、再編準備委員会を設置して進めていくことになる。ここでは、学校運営協議会や行政区長など、地域の代表の方々にも入っていただき、これからどういう学校にしていくかという方策などの意見をいただきながら進めていきたい。中学校再編について、これまでに築いてきた地域と学校</p>	

	<p>の関わり方を、あまり崩すことがないように進めていきたい。</p>
参加者	<p>コミュニティの中では、学校は非常に大事なものである。福島県のある村では、人口500人でも小中学校が存在している。特に、石越中学校の場合は、学校は新しく作ったばかりで、すぐに統合しなくてもいいのではないか。石越は中田に対して人口が少ないので、はっきり言えないこともあるのではないか。</p> <p>それと、再編準備委員会の構成で、委員の人たちは、それぞれの組織の中でどのように意見を聴取するのか。代表者だけの意見では不十分ではないか。それぞれの組織で何回も話し合いをして、皆さんの意見を聴取していかなければならないのではないか。</p>
事務局	<p>会議には、各団体の代表者に入っていただくが、なるべく、会議と会議の間をあげながら日時を設定し、組織内で相談する機会もとっていただくよう配慮していきたい。</p> <p>小さい規模の学校の良さもあるが、特に中学生は部活動にも支障をきたすとか、クラス替えができないとか、いろいろな困難もあるので、理解をいただけるよう説明していきたい。</p>
参加者	<p>石越中学校は北部地域で、20年後の生徒数の内訳は中田が215人で、石越が45人となる。中学校になったら、圧倒的に生徒数の多い中田中学校と一緒になる。生徒数による子どもの力関係、6年間一緒の学校にいた子どもたちが、別の学校から来た子どもたちと対等にうまくやっていけるのかということは検討したのか。</p> <p>また、東部地域は125人となる。4つの中学校でなく、3つにしないと、将来的には厳しいのではないか。</p>
事務局	<p>中学校再編は、町域単位で分けしているのだから、生徒数の差がある。この分けをする際に、生徒数のバランスを考えたとき、小学校の通学区域を割ることも検討したが、小学校は町域に1校は残すこととした。生徒数に偏りはあるが、かなり広い地域なので、通学距離の問題からも4つの分けにした。</p>
参加者	<p>苦勞が見える計画、資料だと思う。一番心配していることは、石越のアイデンティティとなるようなものが、学校が統合されない状況にあっても、少子化によってだんだん少なくなっていることである。その中で、町域の小さな単位を大事にしてほしい。例えば、石越地域は中田町の石森地区との交流が大きいので、石越地域と石森地区という統合だってあっていいのではないか。</p> <p>今日示された資料をもって、結論とされるのでは、為す所がない。計画をぜひもう1回再考してほしい。教育は10年、20年のスパンであるものではない。50年などのスパンで、ゆっくり進めた方がよいのではないか。計画をもう少しゆるやかに、石越の人たちが受け入れられやすいように検討してほしい。</p>
事務局	<p>これまで小学校の再編を進めているが、中学校の再編については、今回、はじめて分けやスケジュールを示した。各地域で説明を行っているのだから、まずは皆さんの意見を聞いていきたい。実際には、再編準備委員会を設置し、話し合いをしながら進めるので、時間をかけて進めていく考えである。</p>
参加者	<p>今、小学校の再編が進められているが、中田町域ではどのように小学校の再</p>

	編が進められているのか。
事務局	中田地域の小学校再編については、これからとなる。来年度、再編準備委員会を設置して、進めていく予定としている。
参加者	教育委員会としては、中田の統合をどのように考えているのか。
事務局	<p>中田地域には、現在、小学校が5校ある。1つに統合できれば良いが、児童数が多く、1つの校舎に入るということは難しい。2つや3つに、段階的に統合することも想定している。</p> <p>ただし、中田地域の皆さんにお聞きしてからである。そういう段階的がいいのか、もしくは5校で統合するか、柔軟に話を聞きながら進めていきたい。</p>
参加者	<p>生徒数がないと、部活動の団体競技が成り立たない。個人的には統合は仕方ないことだと思う。切磋琢磨しないと、人は伸びない。子どもたちの中で、今一番問題になっているのは、部活動をしたくてもできない、勉強したくてもできない、なぜかという切磋琢磨できないからということがあるようである。本当に伸びる子どもたちは、切磋琢磨してもらわないと伸びないという現状があると思う。</p> <p>それから小学校の話だが、中田中学校に統合するとき、中田に小学校は8校あったはずである。中学校で問題があった当時、PTAなどで、ハン子かっぱ村というものを作った。8つの小学校から集まって1つの中学校に入るのだから、小学校の段階で、みんなで仲良くしようということで、会合するなどして、いじめなどをなくしたということがあった。石越と中田の中学校が統合するのではなく、旧町域の浅水や石森地区で1つの学校になるという考え方を持てば、あまり問題は起こらないのではないか。</p>
事務局	<p>小学校については、町域に1校は残すこととしている。中田地域は来年度からになるが、基本としては町域単位で進めているので理解をいただきたい。</p> <p>なお、事前の交流ということで、例えば、津山地域の柳津小学校と横山小学校の統合が決まっており、本年度、事前の交流事業を行っている。統合する前の学校同士で交流するなどして、いじめなどの児童間の課題は解消していきたい。</p>
事務局	<p>貴重な意見をたくさんいただいた。総括して順番に話をしていきたい。</p> <p>コミュニティづくりの問題は、大きな問題だと捉えている。学校は、コミュニティの核になりうるものなので、町域に小学校を1校は、人数が少なからうが、どんな状況であろうが必ず残すという方向を堅持したのは、コミュニティづくりの観点もあるということも理解いただきたい。</p> <p>ただし、現在、コミュニティづくりが中学校を中心という話しであれば、そのコミュニティづくりの視点を小学校にスライドしていく必要もある。中学校が統合したからといって石越の中学生は、どこまでいっても石越の中学校である。</p> <p>中学校の話になるが、部活動もそうだが、小規模で困ることには、中学校で教える教科の教職員が全教科分揃わないということもある。教職員の数は、学級編成及び教職員定数の標準に関する法律によって決められており、それは学級数によって決められる。小学校の場合は、学級数が6であれば6人の先生</p>

が配置されるが、中学校の場合はすべての教科担任が揃わない。部活動もさることながら、そういうところも考えていくと、最低でも学年2クラス以上は必要である。

石越中学校は、今も1クラスで何とかなっているが、校長先生や教務の先生がかなり苦労している。小さい学校でも、ものすごく家庭的で良いところがある。中学校までずっと一緒に、みんな分かっているので手も貸してくれるし、手助けしてくれたり、アドバイスをしてくれたりする。

また、パワーバランスはどうなのかということも出たが、小学校の段階から交流をどんどん進めていかななくてはならないので、その部分にはしっかり取り組んでいきたい。小学校については、石越であれば、加賀野と石森の小学校を統合し、そこに石越が入って1つの中学校にするという考えはあるかもしれない。このような人数の編成で行くと、市内に2つの中学校で間に合う。しかし、本市の広さの中で2校にしたら、通学時間はどうなるのか。

今回説明したものは原案であって、その課題をいろいろなかたちで吸い上げた中で、再編準備委員会の中で協議し、実際にいろいろな意見をいただきながら進めていくということが、基本的には教育委員会の考えである。現時点でこういう想定をしているという原案がないと、議論にもならないので、今回の示したもののなので、理解をいただきたい。

方法はこれから議論する中で、見直しをかけていかなければならないと思っているが、子どもたちのことを優先に考えなくてはならないので、皆様の理解、さらには良いお知恵をいただきたい。

事務局

小学校の再編状況について説明

事務局

閉会 午後8時10分